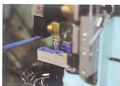




①取材時、生産されていたのはアメリカ向け車種用フロントサスペンションだった。黒い棒状のものがダンパーケースで、上に着いた皿のようなものがスプリングがセットされる部分だ

## ショーワのダンパー 生産ラインを見た！



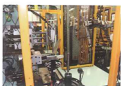
②ダンパーオイルの注入工程は、完全に自動化されている。この生産ラインでは人間の確認作業も必要なく組み付けなどのパートを除いて、基本的な工程は自動化されている



③生産ラインでダンパーオイルは2種類がセットされている。無色なのが従来のオイル、ブルーが新しいオイルということになる。ラインを流れていたダンパーには従来品のオイルが使用されていた



④完成したダンパーはすぐさまライン上で、最大3回異なるテストをクリアしなければならぬ。あるスピードでストロークさせ、必要な減衰力が出ていることが必要になる。このテストもすべて自動化されていて、OK/NGが自動判定される



⑤右側のロボットアームが、まるで人間の腕の動きのように、ピストンロッドをダンパーケースの中に入れる。左側のロボットアームは、それを規定の位置まで挿入する



⑥最終にひとつずつ確認までチェックされた後、出荷用コンテナにセットされて、自動車生産ラインへと出荷されて行く



⑦86 / BRZのようにダンパー一かみの生産もしているが、ショーワはスプリングをセットしたアッセンブリーの状態で出荷するのが基本だ。そのため、生産ラインの最後はスプリングをセットし、アッセンブントを組み込みた状態となる

これは2003年に初代フィットをベースにスタートした時からの伝統なのだ。スポーツは文字通りが伝統。コンフォートというのは快適さを重視したというニュアンスでいうことになり、その対義語として「スポーティ」は、アファーマーケットではあまり聞かれない。しかし、それが必要であることが判断した時に、あえて乗り心地にフォーカスし、最近フィットとスポーツを決定する。最近フィットはスポーツだけ設定されるモデルが多かったが、86はコンフォートも設定されていることが決まっている。これはつまり、ユーザーに不満を招くユーザーには、明確に違いない。また、最終スペックは決まっているという方が、より多くの86ユーザーにとってもメリットが大きいはずだ。現実のところ、ショーワチューニングでは「スポーティ」で86のM、AT、そしてBRZのMという3

タイプ、「コンフォート」で86用の計4タイプを今年秋頃に導入してラインナップする予定だ。86とBRZを作り分けるのは法規制対応のためだが、MとATというわずかな差を置いて別の仕様とするのは、賢いともいえる。たわむれたいというユーザー、ノーマルのダンパーは、じつはそれほどこまかくは変わらない。ピストンサイエンスピストンの構造もノーマルそのもの。異なるのはリバウンドスプリングが組み込まれていること、そして新しいスペックのダンパーオイルが採用されていることだ。これがショーワならではのこだわりだ。リバウンドスプリングというのはダンパーの中に組み込まれている。伸び倒をコントロールするスプリングのことだ。一般的にはオイル剛性を高くするために採用するのだが、そこは多バターのスエスヤリス

## Tuner's eyes

ショーワチューニング開発担当者  
河村哲範さん



—なぜスポーツとコンフォート、2種類をラインナップさせたのですか？  
「1種類のチューニングで、その両方を満足させることはできないです。だからユーザーの短みに合わせて、スポーツとコンフォートの2種類を設定することにしました」  
—MT ATが別の品種になっていませんか？  
「開発用車両はMTだったんですが、最終的にOKになったスペックをATでテストしてみると、全然ダメだったので、ショーワは、OEMが主力のメーカーであり、しかも公道での使用を前提としたユーザーをターゲットとしている以上、法的基準をクリアするのは不可能だ」

—86ユーザーの間では乗り心地の改善に対する要望が強いように思いますが……  
「東京オートサロンやディーラーでも、そうした声は頂いています。発売は夏以降になる予定ですが、期待に応えられるようなモノに仕上げます」  
—86を開発してみて、苦労したところは？  
「クルマがセンシティブで、ある部分を少し修正しただけで、違う部分が悪化してしまうんですね」

—ショーワチューニングとしてはNGだ、ということになって、別のスペックにすることにしました」

—そんなこともあって、ベストなポイントを見つけるのに苦労しましたね」

車高が大きくなる。それによってワイドなタイヤを装着できる。といった利点を生かした目録はない。しかし、耐久力を高めるために、全方位でリベラアップさせたいと考えたユーザーには、他に選択肢のない一択に違いない。

たが、86 / BRZの持つ「乗り心地は影をひそめたい。ノーマルではサスペンションを固めて、様々な動きを許さずせんせいでいるのが、ショーワチューニングではストロークさせながらでも、うすパララクスさせ、様々な動きが出て来ない。おろろ絶妙なバランスで成立させているのだらう」

あくまで車検対応ということとで、高はフロントが10mm、リアが10mmダウンとしている。これに比べると、86のワインカレントの地上高が基準値よりも低くなってしまっている。保安基準をクリアすることができない。ショーワは、OEMが主力のメーカーであり、しかも公道での使用を前提としたユーザーをターゲットとしている以上、法的基準をクリアするのは不可能だ

新しい開発したダンパーオイルは、ショーワの新しいコンセプトである「S.E.E.S」のために開発されたのだ。ダンパーオイルだけでなく、内部パーツも一新しているのだが、ショーワが採用されている新しいダンパーオイルが注目されている。

—86ユーザーの間では乗り心地の改善に対する要望が強いように思いますが……  
「東京オートサロンやディーラーでも、そうした声は頂いています。発売は夏以降になる予定ですが、期待に応えられるようなモノに仕上げます」  
—86を開発してみて、苦労したところは？  
「クルマがセンシティブで、ある部分を少し修正しただけで、違う部分が悪化してしまうんですね」  
—そんなこともあって、ベストなポイントを見つけるのに苦労しましたね」